

令和5年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時等

令和6年1月22日（月曜日）午後2時から午後4時3分まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター本館6階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

令和5年11月30日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した16事例について検討を行った。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。

4事例（下痢、体の痒み/皮膚症状/吐気・嘔吐、めまい、軽度な全身症状/上腹部痛、吐気・嘔吐）に関して、都医師会、都薬剤師会へ情報提供し、更なる情報収集について協力を依頼することとなった。

7事例（消化器症状/皮膚症状/下痢3/便秘2）は、摂取状況・転帰等が不明であるために因果関係が不明であることから、蓄積していくという結論になった。

5事例（下痢、吐気・嘔吐/肝機能障害・検査値異常/血液検査値異常/上腹部痛・不快、吐気・嘔吐/頭痛）は、併用薬の影響等製品以外の影響も考えられるものや、既知の軽度な症状のものであることから、蓄積していくという結論になった。

また、①基礎疾患のある人（医薬品を服用している人）が健康食品を摂取する際は、利用前に医師・薬剤師等に相談することが大切である、②健康食品を利用して体調不良を感じたら摂取をやめ医療機関にかかることが大切である、との意見があがった。

(2) 事務局からの報告事項

ア 東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼の実施について

（令和5年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和5年度第1回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした4事例（肝機能検査値異常/胃部不快・だるさ/皮膚症状/吐気・嘔吐）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼した。

イ 収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から令和5年11月30日までに収集した事例の集計結果は、下表（抄）のとおりである。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抄）

ア 情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	270	189
薬剤師会	242	228
東京都消費生活総合消費者センター※	3	3
合計	515	420

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月 17 日から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	その他・不明	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	21		1	1		4					2		1	4		4	3		18	59
30代	18	1	2		1	6					5		4	1		7			20	65
40代	20	2	4	1	1	4	2	1	1		1		6	3	1	5			21	73
50代	10	4	1		1	27	13	1	1	1	2	2	8	2	2	4		1	34	114
60代	9	6	1	1	3	14	20	4			1	2	15	7	2	1		2	35	123
70代以上	10	9	2		5	25	47	5	6	4	1		14	9	1	3		2	67	210
不明・記載なし	2	1			3	1			1				3		1	1			42	55
合計	92	23	11	3	15	83	82	11	9	5	12	4	51	26	7	25	3	5	239	706

- ・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給、腰痛・関節痛は 50 代以上、健康維持・健康増進は 60 代以上が多い。
- ・年齢別では、50 代以上の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	308	73.3%
男性	106	25.3%
記載なし	6	1.4%

・女性 は 男性 の 約 3 倍 で あ っ た。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比
あり	259	61.7%
なし	102	24.3%
不明・記載なし	59	14.0%
合計	420	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約 4 割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数(人)	構成比
有り	250	59.5%
無し	122	29.1%
不明・記載なし	48	11.4%
合計	420	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約 6 割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数(人)	構成比
有り	192	76.8%
無し	15	6.0%
記載なし	43	17.2%
合計	250	100.0%

(母数：基礎疾患のある 250 人)

・基礎疾患のある人の約 8 割が、治療薬と健康食品とを併用していた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	133
胃痛・胃部不快感・吐気	84
肝機能障害、肝機能検査値異常	48
下痢・軟便	48
血液検査異常(肝機能以外)	45
便秘	15
倦怠感	7
出血、出血傾向	7
めまい・ふらつき	7
頭痛	7
下腹部痛、子宮出血	2
その他	60
合計	463

（母数：420人）

・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。

・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものである。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

令和6年1月現在

No.	氏名	所属
1	朝倉 敬子	東邦大学医学部社会医学講座 予防医療学分野 教授
2	梅垣 敬三 (座長)	静岡県立大学 客員教授
3	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
4	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科(呼吸器) 教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室 室長